

国 語（書 写）科

1 教科の目標

- (1) 日常生活に必要な文字について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や表現力を養う。
- (3) 文字がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、文字の大切さを自覚し、文字を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項へと系統的に指導し、各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。

2 指導要領における内容の取り扱い

(1) 内容の取り扱いについての配慮事項

- ① 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮する。
- ② 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行う。
- ③ 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する。
- ④ 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導の工夫をする。

(2) 具体的事項

- ① 文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育成する。文字を正しく整えて書くことができるようにすることに加えて、書写の学習で身に付けた資質・能力を様々な場面で積極的に生かす態度を育成することが重要である。例えば、学習したことをノートに書いたり、調べたことを模造紙等にまとめたりすること、手紙を書くことなどがある。また、書き初めに取り組むことなどを通して、書写の能力が生活の中の様々な行事に生きていることを実感することも大切である。
- ② 硬筆を使用する書写の指導は、必要に応じて、取り立てて指導したり、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」と関連付けて指導したりして、確実に実施することが必要である。
- ③ 毛筆を使用する書写の指導においては、硬筆による書写の能力の基礎を養うように指導することが重要である。毛筆を使用する書写の指導が、毛筆書写の能力の育成で完結して

しまうことがないように、硬筆との関連的な指導の工夫をすることが大切である。

- ④ 低学年の〔知識及び技能〕の(3)ウ(イ)における「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫する。例えば、水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなどして、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を行う。「点画」の始筆から、送筆、終筆(とめ、はね、はらい)までの一連の動作を繰り返し練習することは、学習活動や日常生活において、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながる。水書用筆等を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにもつながる。

(3) 具体的な指導内容

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
指導事項	<p>○姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。</p> <p>○点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。</p> <p>○点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。</p>	<p>○文字の組み立て方を理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>○毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>○用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>○毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p> <p>○目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p>